

## 第2回登別市総合計画第3期基本計画市民検討委員会まちづくり部会議事録

- ◆ 開催日時 平成 26 年 6 月 5 日（木） 18：30～ 19：45
- ◆ 開催場所 第 1 委員会室
- ◆ 出席部会員 部会長 中原 義勝  
部会員 山田 正幸  
松本 崇之  
田中 寛志  
川島 雅司  
成田 育磨  
堀井 貴之（市庁内検討委員会 部会長）  
【総務部次長】  
沼田 久人（庁内検討委員会 副部会長）  
【市総務部企画調整 G 総括主幹】
- ◆ 欠席部会員 副部会長 渡部 雅子  
部会員 稲葉 一彦  
工藤 隆行
- ◆ 事務局 【兼】沼田総括主幹、上野企画主幹、西川原主査
- ◆ 議題 「第 6 章担いあうまちづくり」に関する考え方について

### ◎部会長

本日は、副部会長が出席予定でしたが、体調を崩されたとのことで欠席となっております。また、他の予定により、2名の部会員は欠席、2名の部会員が少し遅れて出席ということになっておりますが、定刻となりましたので、第2回のまちづくり部会を開催します。

前回は、この計画づくりを進めるに当たって、自らのまちづくりへの思いを語っていただくということで各部会員さんからお話ししていただきましたが、今回もその続きということで、思いを語っていただき3回目からは体系図の検討に入っていきたいと思っております。

前回の部会から少し時間も経っておりますので、その間に新たに思ったこともあるかと思っておりますので、各部会員一人ずつお話ししていただきたいと思っております。

## ◎部会員

前回皆さんの思いをお聞きして、今後意見を出していかなければならないと思っているが、今登別の「まちづくり」にネックとなっているのが、何なのかということが見えない。例えば、人口減、少子高齢化ということは、はっきりしている。課題を挙げてそれをどう解決するのかということを考えていったほうがはっきりすると思います。

人口減についても、何年後には何千人の人口が減るなど、減ることしか考えていない。その傾向を緩めるために市はどのような対策をとり、人口減に歯止めを打つ、もしかすると人口増に繋がる施策を実行するなど、色々なテーマを掘り下げ、将来このまちをどうしていこうかということで議論していくしかないと思っています。

漠然とどうして行けば良いかと進めても整理がつかないと思います。

そういった考えで、また皆さんの意見と聞きながら議論していきたいと思っています。

## ◎部会長

ありがとうございました。次の部会員さん発言をお願いします。

## ◎部会員

私は今日、皆さんの意見に対して、質問しようと思いましたが、自分から提案するとなると、やはりまちづくりは人口に関するところが一番の問題になるのかと思う。単純に人口が減っていくことに対し黙って見ていて、その人口減に合わせたまちづくりを考えているようにしか見えない。消防署を建てるにしても、「こことここをまとめよう」など人口減を考えると仕方がないことだとは思いますが・・・。

例えば、どこだったかは記憶していないが、あるまちでは、路線バスを町中にシャトルバスのように運行させ、住民が好きな時に好きな場所に自由に行動できるような整備をしたことにより、人が動き、地域の活性化につなげた例があったと記憶しています。行政が実施するとなるとバスや人材など、イニシャルに係る部分のリスクは当然あり、今の行政では実施するのが難しいと思うが、行政と民間が協力することで市外の人から、「すごいね。このまち」と思わせるようなことを先にしないと、人口は増えてこないと思います。

今後10年間、またその後の未来のことを考えると、そのような考えを持っていればよいまちづくりにつながっていくと思う。少子高齢化については、医療費の軽減策なども含めて、もっと考えていかなければならないと思っています。

それと前回も少し話しましたが、行政では登別温泉をどう考えているのか聞いてみたい。登別温泉をどうやって活用していくかによって、まちづくりの考え方は、大きく変わるのではないかと思う。登別温泉は登別市の中でどのような位置づけなのか。観光都市といっても、市民には、観光と直接的に関係ない人も多い。世間的に観光都市とPRすることはとても良いことだと思し、私たちも市外の人に自慢できることですが、まちづくりにおいて、登別温泉とは何なのでしょう。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

第2期基本計画では、第3章の産業分野のところで、温泉というか観光を軸として、そこから波及して経済の活性化を図ることとした「産業クラスター」という考え方があり、いろいろとやってきたが、なんでも観光に結び付くわけがない部分が出てくる。一定の成果が出たものもあるが、このまま続けるのはどうかということで、産業クラスターは終息させました。

登別温泉については、単純に考えて、全国の人の知名度というのはかなり高いと思っています。そのような観光地が地元にあるということは、私は素晴らしいことだと思います。だからといって必ず温泉を結び付けて市民が生活することは全くないと思います。

例えば、京都市は神社仏閣などが多数あると思うが、市民がすべてそれに関連した仕事をしているかというところではないと思う。また、市民が神社仏閣を頻りに訪れているのかというところも違うと思う。それでも市民は、自分たちのまちにそのような他地域に誇れるものがあると思って生活していると思います。

まちづくりに登別温泉を組み入れて考えられるのであればそれで良いし、何でも登別温泉にこだわる必要もないと思う。登別には温泉しかないのかというところではないと思います。

### ◎市庁内部会部会長

経済の活性化を考えると、登別温泉というのは大きな存在です。しかし、まちづくりという観点から考えると、もともと登別市の半分は、ベッドタウンとして発展してきた点がある。主産業といっても漁業と畜産以外はあまりなかった。そうすると目立った産業は温泉・観光となる。ただ、見方によっては、室蘭市のベッドタウンという捉え方もある。それでも、登別市の産業を活性化させるために施策を講じる場合には、やはり温泉を中心とした観光を基幹産業として捉えるべきだろう。年間300万人が訪れる観光客をまちの経済活性化に組み入れようとした考え方が「産業クラスター」である。産業クラスターは単

なる連携ではなく、事業者が集まり、出資し、事業を行うことまで考えていた。ところが連携はしたが起業までの実績は少なかった。経済活性化には、現在もいろいろと取り組んでいます。

しかし、まちづくりとして考えると、どうしても鷺別地区の住民等にとっては、登別温泉は身近ではないという印象があると思う。ただ、市としては全市的に一体感を持っていただきたい。

#### ◎市庁内部会副部長兼事務局

まちづくりを考えるときに、マイナスのことから考えると良い方向に進まないと思う。温泉にしても、まちづくりに良い点、悪い点がそれぞれあると思うので、良いところを見つけてそれを何かに生かせるかというように議論を進めない行き詰まると思います。

登別市は観光のまちだということだが、この小さなまちに3つのテーマパークがあるということも大きな魅力だと思います。今は、海外からの来客もあり事業者やその関連企業の活性化に繋がっているので良いことだと思うが、今後魅力を見つけて売り出さないとせまいまちづくりになってしまうと思います。

#### ◎部会員

観光を軸とした産業活性化もまちづくりには大切なことだが、やはり人口増などを考えると住民の満足度を考えなければならない。経済や観光などの施策も大事だが、登別温泉の産業から他地域に波及させるのではなくて、他地域の住民が登別温泉に近づくことができれば違う意味で登別市民の満足度が上がるような気がしています。

満足度が上がるということは、人も入ってくるのではないかと思う。そういう視点から見ていけないでしょうか。

#### ◎市庁内部会副部長兼事務局

今発言された部会員さんが普段生活している中で、生活の不便さやもつとこなればよいと思うファクターの中に、「温泉」はありますか。

#### ◎部会員

ないです。

#### ◎市庁内部会副部長兼事務局

たぶん普段普通に生活している市民の感覚で、「温泉」のファクターはあまりないものと思います。

### ◎部会員

ないですが、例えば市民がいつでも低額であったり、年間数回無料で入浴できるなどの制度があれば当然行くし、市外の友人にも地元こんな素晴らしい温泉があると紹介し、一緒に連れていく。これも一つの市民満足度だと思います。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

それもありますね。

### ◎部会員

確かに普段の生活のファクターには「温泉」は無い。ただ、今は「温泉」を身近に感じられない部分があるから無いだけで、これが先ほど言ったような制度があれば、「温泉」を身近に感じ、生活の大きなファクターになるかもしれない。

言いたかったことは、「温泉」に安く入りたいということではなくで、例えばこのような事業をすることで市民満足度が上がるのであれば、みんなで議論して、良いものを作り上げていけば良いと思っています。

### ◎部会員

やはり満足度だと思う。でも、現状はこのような会議をしていても市民は関心がない。どうしてかというと、市民は何も満足していないから。どうせ何も変わらないと思っているからだと思う。自分さえよければ良いと思っている。これが普通の市民感覚だと思います。しかし、何か市民の満足度を満たすことができればまちが変わるのではないかと思います。

### ◎市庁内部会部会長

一方で、このまちに愛着を持っている人もたくさんいます。このまちに生まれてよかったと思っている人もいれば、会社員等で、職場の関係でたまたま今は住んでいるだけという人もいます。

### ◎部会員

登別市の基幹産業は観光、最たるものは登別温泉。市民は基幹産業が観光であると考えるようになるにはどうするか。今は市民にそのような感覚はあまりないと思う。大分県の由布院では、まち全体に観光という意識が見える。どこに行っても土産屋があり、食事する店がある。登別をそうするかということは別問題だが、市民にまちを支えている産業は観光だという思いにするためには、

どうすればいいのかを考えたい。

登別は山、海、川と自然が豊かであるので、これらを最大限に利用したら何かできないかと考えていくと何ができると思う。人工物よりも自然のものの方が人は集まるし何回も足を運ぶ。

例えば、登別漁港の近くに函館の朝市のような施設を作るなど。年間300万人の観光客が来ているということは、少なくとも一日7千人以上が登別に来ているということ、その2割程度の1,400人が温泉以外の地域で過ごせるようになると、相当な効果があると思う。考えていくといろいろなことができる。

しかし行政がこのようなことをやろうとすると、どうしても予算の絡みなどで停滞する傾向があるが、我々は自由な発想でどうやればいいのかということを考えたい。

#### ◎市庁内部会副部長兼事務局

いろいろなアイデアがあるのはとても良いことなのだが、それをだれがやるのかということがいつも問題となります。

#### ◎市庁内部会部会長

まさにそうである。例えば、道の駅についても、何を売のかということになる。登別らしいという物がまだ少ない。

#### ◎部会員

今は、温泉に宿泊した観光バスが、虎杖浜の海産物販売店に向かっている。これを漁港に回せば済む話ではないでしょうか。

#### ◎市庁内部会部会長

現在の流通形態などから簡単にはいきません。

#### ◎部会員

「東洋一の温泉 のぼりべつ」という看板もあるので、この観光地で何かやろうと思う人は、全国にたくさんいると思う。市職員が数名宣伝マンとして全国PRすれば、何か事業をしたい人などを見つけられるはず。

#### ◎部会長

ありがとうございました。次の部会員さん発言をお願いします。

## ◎部会員

私は人口減、少子高齢化などは、全国的な問題なので、まちづくりとしては、登別市の魅力を何とか発信する必要があると思う。今の市民は、そのようなことには関心が薄いですが、そうではなく官民一緒に協力できるような仕組みが必要だと思う。しかもお金がかからない方法で。もし費用が掛かっても市の予算書で、市民がこれなら良いと思うようなら尚良い。

先ほどから登別温泉の話が出ているが、私は登別温泉は独自に活性化すれば良いと思っています。

他の地域は、子育て環境を整えるなどの魅力を深める地区を創設するなど、定住人口や市外企業の参入を増やし、温泉とそれ以外の地区で、別な発展をするのもよいと思っている。これを実現することは、非常に難しいことだと思うが、旭山動物園が再生した例などは、旭川市が問題を真摯にとらえ民間も参入してそうなったのではないかと思う。本当にまちを良くしたいと思ったら、官民の連携をもっと深めなければできないと思います。

この部会も我々だけの思いで進めるのではなく、各部会員が所属する団体等の意見も持ち寄り議論する必要があると思います。

## ◎部会員

登別温泉は、以前、温泉だけでまちを発展させようという考えがあった。今でも登別温泉とそれ以外の地区に住む住民の中には、その当時の思いを持った人もいます。

## ◎市庁内部会部会長

登別温泉も今までは、ホテルに宿泊している人が施設内に滞留する傾向があったが、最近は個人客も増え、食事なども外で楽しむ傾向になってきています。観光業界では、新たなイベントや温泉街の活性化などを連携して始めています。

## ◎部会員

要は、登別温泉だけが特別な業種ではないので、温泉地区だけの発展を進めるのなら、そこだけで行えば良いし、市全体の発展を考えるのであれば、もっと温泉以外の企業とも連携が必要だと感じています。

## ◎部会長

ありがとうございました。次の部会員さん発言をお願いします。

### ◎部会員

選挙の件だが、まちづくりから考えた時に、今の組織選挙で地域のまちづくりを考えることができるのかと思っています。すべての議員とは言わないが、果たして、まちづくりのために率先してボランティア活動を行い、自分の住む地域の課題をしっかりと説明できる議員はどのくらいいるのでしょうか。

あくまでも私の持論ですが、極論を言うと、市町村レベルの議員は連町ごとなどの代表者で十分対応できるとしています。それが本当の市民によるまちづくりになると思う。地域は疲弊しているのに国主導の議会は必要ないと思っています。

### ◎部会員

私も同感です。今に議員が登別をどう良いまちにして行こうと思っているのか全く見えない。今、議員が何をしているのかわからない市民が多いと思います。

### ◎部会員

今は、地域の問題を住民が市役所に相談しに行くと職員が相談にのってくれます。

### ◎部会員

議会だけではなく、市職員の採用についても、単に試験だけではなく、今後の業務では、福祉や市民対応などデスクワーク以外の仕事にも対応できるよう、地域ボランティアの経験を問うことは大事だと思います。学力も当然大事だが、マニュアル人間と、人との関わり方を知っている人が同じ説明を市民にしたら全然受け止め方も違います。そのようなことを踏まえ考えなければ、市民に対する満足度も変わるのではないかと思います。

### ◎部会員

一般市民は、議員は何をしているのかわからないと思うので、やはり、議員在任中は、税金により報酬を貰っているのだから、市民に活動内容がわかるよう地域の行事に積極的に参加するなどしたほうが良い。ほとんどの市民にとっては、選挙で投票しても何をしているのかわからないのが現状です。その辺りを払拭できるよう公約の達成や、市民の目に触れるようなまちづくりに参加してほしい。



### ◎部会員

議員は市民と一緒に汗をかかなければいけない。議員である前に一市民であることを自覚し、議員が市民の頑張っている所に参加することにどんな障害があるのでしょうか。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

いろいろと意見が出ていますが、最後にまだ発言していない部会員さんの意見はありますか。

### ◎部会員

私の世代が、どんどん市外に出ていくことが少し寂しいです。なぜかと考えると、就労場所がないということが一番の問題ですが、次に登別市内の家賃が高いという話があります。室蘭市と比べても家賃が高く、実際に市内に住みたい希望があるが室蘭市に住んでいる人もいます。

ぜひ、若い世代が住めるような環境整備が必要だと考えています。

### ◎市庁内部会部会長

若い世代の意見は貴重ですね。少し話がそれますが、町内会の役員の若い世代の加入が低く高齢化が進んでいます。以前は、40～50代の役員が多かったのですが、今は、地域に担い手がいないため、その当時の役員がそのまま役員となっている所が多いです。

原因の一つが、以前は自営業の方などが多く役員をしていたが、今は会社勤めの人が多く、町内会活動の時間を割くことができないことや、地域のつながりが薄いことなどが考えられ、結局高齢化していくことになっていると思われる。

### ◎市庁内部会副部長兼事務局

確かにそのようなことも考えられるが、一方で、平均寿命も上昇したこともあり一昔前の60代の方と、現在の60代の方を比べると、今の方のほうが断然若いという印象もあります。

ですからこれからは、高齢化を憂っているばかりではなく、高齢者にも頑張ってくださいことになるかもしれません。今まで現役で頑張ってきたのに、さらに地域活動でがんってほしいというのは酷かもしれませんが。

### ◎部会員

サラリーマンにその活動までやれということになると、本当にプライベートな時間がなく、余暇時間を奉仕活動に捧げなければできません。何のために自分が頑張っているのかよくわからなくなってしまう。

### ◎部会員

効率の良いまちづくりを進めていくには、どうしたら良いかと考えた時に、市民、行政、議員のそれぞれの役割をしっかりと考えていかなければなりません。

### ◎部会員

昔は、市職員が町会の役員をすると、特定地域の利権につながるなどの理由から、町会活動に参加できないとされていた時代があったが、今はそんなこともなく。逆に、現役職員が役員や退職した職員が会長になってくれている所もあります。

このように市民や行政は変わってきているのに、変わらないのは議員だけだと思います。

### ◎部会長

さて、皆さんからは、かなり本音の話も出てきたと思います。最後に一つだけ事務局に確認したいことがあるのですが、先ほど話の合った「産業クラスター」に代わる施策というのは、今回の計画に何かあるのでしょうか。

### ◎市庁内部会部会長

「産業クラスター」自体は、これを基に業を起こすということまで考えており、実際には、エゾシカの解体施設などの事業は動いていますが、会社を興すまでのものにはなっていません。

今回の計画には、クラスターを軸としたものではなく、現在進めている個別の施策を盛り込む予定です。

### ◎市庁内部会副会長兼事務局

部会長、次回以降の進め方ですが、そろそろ皆さんの思いなどもある程度ご発言いただいたかと思いますので、体系図（案）の第6章の上から順番に話を進め、考え方を整理して行きたいと思いますがいかがでしょうか。

## ◎部会員

体系図は、大幅に変えても良いですね。

## ◎市庁内部会副会長兼事務局

章の文言以外は変更可能ですが、変更するには、全て変更理由が必要です。

今、庁内でも体系図の見直しを随時行っており、すでに変更する部分もかなり出ていますが、変更理由を明確にするため、頭を悩ませています。

各部会員につきましては、次回までに、担当する第6章について、第2期基本計画と、第3期基本計画体系図案を、再度確認していただきますようお願いいたします。

## ◎部会長

はい、わかりました。次回からは、いよいよ体系図の検討に入っていきたいと思えます。

次回の開催についてですが、前回の会議で6月19日（木）18時30分からとしておりましたので、そのとおりとします。

場所については、事務局のほうから出欠確認を含めてお願いします。

以上で終了します。